

地球環境・地球内部・地下圏微生物専門部会合同会議

SSEP 事前打ち合わせ 議事録

文責：阿部なつ江

【日時】 2005年11月7日 13時30分～17時

【場所】 海洋研究開発機構 東京連絡所 セミナー室

【議題】

1. 報告事項

1-1. 部会長会議報告

1-2. SSEP 報告

1-3. SPC 報告

2. 審議事項

2-1. Mission Team について

2-2. 次回 SSEP 対応他

【配付資料】

・ 議案

・ 資料

資料-1. 専門部会・部会長会議 議事録(案)

資料-2. PMO 会議の概要

資料-3. SSEP Draft Executive Summary

資料-4. SPC Consensus 0510-??

資料-5. IODP における我が国の科学戦略(2) 研究支援体制の確立に向けてー

【出席者】

地球環境専門部会

多田隆治 (SSEP・部会長・東京大学), 伊藤孝 (SSEP・茨城大学), 大河内直彦 (SSEP 代理出席・JAMSTEC), 松田博貴 (熊本大学), 長谷川卓 (SSEP・金沢大学) 林田明 (SSEP・同志社大学)

地球内部専門部会

荒井章司 (SSEP co-chair・部会長・金沢大学), 阿部なつ江 (JAMSTEC), 海野進 (SSEP・静岡大学), 小原泰彦 (SSEP・海上保安庁), 道林克禎 (静岡大学), 望月公廣 (東京大学), 山野誠 (東京大学)

地下圏微生物専門部会

北里洋 (SPC・部会長・JAMSTEC), 青木和弘 (核燃料サイクル開発機構), 高井研 (SSEP・JAMSTEC), 奈良岡浩 (SSEP 代理出席・岡山大学), 丸山明彦 (産業技術総合研究所), 山本啓之 (SPC・JAMSTEC)

SSEP 委員

伊藤慎(千葉大学),富士原敏也(JAMSTEC),廣野哲朗(JAMSTEC),小川勇二郎(筑波大学),
入野智久(代理出席・北海道大学),石橋純一郎(SSEP・九州大学)

事務局

長橋徹,山川稔

オブザーバー

Daniel Curewitz CDEX,伊藤久男 CDEX,巽好幸(SPPOC・JAMSTEC),川幡穂高(SPC・東
京大学)

欠席者

鈴木徳行(IODP 部会長)北海道大学,山崎俊嗣(SSEP・産業技術総合研究所),佐藤時幸(執
行部・環境・秋田大学),保柳康一(信州大学),鈴木聡(愛媛大学),谷口真人(地球環境
学研究所)

【議事】

議長を北里洋(地下生物圏専門部会長・JAMSTEC),書記を阿部なつ江(地球内部専門
部会部会長補佐・JAMSTEC)が行った。

1. 報告事項

1-1. 部会長会議報告

北里氏より 10 月 11 日(火)に東京連絡所で行われた同会議について報告があった

1-1-1. SSEP の統合に伴う国内体制の対応について。

・ SSEPs 統合に合わせて,国内三専門部会を一つにまとめる。

・ 各専門のバランスを考慮し,現専門部会に対応する各分野から 5-6 名ずつ(SSEP
委員 2 名,次期 SSEP 委員候補 2 名,+1 名)合計 15 名程度を選出する。

各分野担当を指名しメンバー候補を上げる。

・ その他必要な分野(事前調査部会など)はオブザーバーとして必ず参加して貰
う。

・ 総会での承認を経れば,次回(2006 年)4 月から統合予定。

新部会のマニフェストは,初回の会合で,鈴木 IODP 部会長(若しくは補佐の阿
波根氏)を交えて確認・決定する旨確認した。

1-1-2. 京都の Program Member Offices (PMO)会議での提案について

各国の文化や習慣の違いによる誤解・軋轢を避けるために,気がついたことを提
案するため,意見を収集した旨報告された。

1-1-3. PMO 会議の報告(事務局)[資料 2]

担当者不在のため説明は省略し,資料の概要を各自確認することで代行した。

1-2. 前回 SSEP(上海)報告 [資料 3]

1-2-1. 荒井 SSEP 共同議長から前回の報告があった

・[資料3の1.11] STP chair のプレゼンテーションが行われた。背景として技術的なこと（最新技術など）を求めるプロポーザルが増加しているため。

・ 35 のプロポーザルが対象，ハードロック関係の数が少ない。グループの再構成が必要になる可能性有り。

・ Panel member と co-chair の問題について審議。

（主に日本側から）国の事情によっては，同一機関から複数出さざるを得ない。各国事情を考慮し，特にコンフリクトが無ければ由とし，出来れば避ける方向で合意。

Rudiger Stein (Environment) が次期 co-chair として決定された。3名の co-chair の分野バランスについては，国の事情を理解し，人物優先。

次回 SSEP (ハワイ)で荒井氏が交代するため，日本からは多田氏を推薦する。小川 SSEP 委員に多田氏 recommend をお願いし，了承を得た。

(問題点)Member のバランスは問題：microbiologist が少ない。岩石はプロポーザルが少ないので他分野に回されることになる。

岩石分野は，ハワイで2人（荒井氏，海野氏）が抜けるので，その後任の分野は岩石以外にするなど考慮する。

1-2-2. 微生物関係のプロポーザルの進展状況，及びハワイ SSEP での微生物 WG について [高井氏より]

<現状>

微生物をメインにしているプロポーザルはたたかれやすい。理解のある（強力な）Watchdog がフォローし，一回の審議で上がったプロポーザルも過去にはある。SSEP 委員が代わるたびに同じことを言われる，微生物分野を理解する SSEP 委員が1名しかいないため議論が進まない，グループ分けでも，微生物は遠い分野と一緒にされる，などが問題点としてあげられる。

・(今のプロポーザル評価の方法を厳密に適用すると)過去に掘削が行われてデータが豊富にある場所以外の海域では，地下生物圏を対象としたプロポーザルの提案は事実上困難が伴う。従って提案テーマが枯渇する恐れが大きい。

<対策>

・ Deep Biosphere は microbiology だけではない。その環境の記載，分析が重要。他分野が関わった multidisciplinary なグループが必要である。(山本氏)

・ 委員の選出は分野バランスを考えた対策が必要であろう。(荒井氏)

・ 微生物に限らず，グループ分けではどこかしらムリがある。プロポーザル提案数からもグループ分けも再考する必要があるかもしれない(荒井氏)

・ 全般の問題として，そもそも SSEP メンバーもどのようなプロポーザルが良いのか理解できていない。SPC の考えなどを明確にする等，問題点を洗い出す必要あり。

(荒井氏)

次回ハワイでは , microbiology WG で問題点を審議・報告する予定 .

1-3. SPC 報告 (10 月 25 日 28 日 , 京都) 北里氏・山本氏

1-3-1. Mission Team について

1-3-2. ISP を具体化するためのシンポジウムについて

上記二項目は検討事項へ持ち越しのため , そちらを参照

1-3-3. FY07/08 の航海計画について

< 現状報告 >

MSP :

タヒチは掘削中 . ニュージャージー Sea Level Change は先送りの可能性有り .

ちきゅう :

2007 年秋から NanTro を non-riser で掘り始める . ちきゅうと US New Ship の二船が同時に南海を掘削する航海計画案を OTF に具申している .

2. 検討事項

2-1. フラスカティールレポート (Mission Team 設置) に対する J-DESC の対応について
山本氏 , 川幡氏より Mission Team (以下 MT) について , 及び SPC のコンセンサス (案) について説明があった . (資料 4 「 SPC consensus 0510-?? 」)

< MT 構想が持ち上がった背景 >

- ・ 10 月 1 日に提案された 31 プロポーザル中 , 日本から 2 つ (new) , ライザーによるものはゼロである .

(新しい分野など) ISP がプロポーザルに反映されていない . (そもそも ISP が問題であるという議論には , 今のところ至っていない)

- ・ アイデアは良くても事前調査が出来ないためにプロポーザルが進まない .
- ・ 「ちきゅう」の運航費獲得のためにも (科学運用を続ける為にも) , ライザー掘削提案は急務である (10 から) .

このような現状 (事情) から完全なる bottom up でプロジェクトが進むまで待てない .

< 対策 >

- ・ MT を作る (基本は bottom up の逆 (決して Top down ではない) , efficiency を求める , site survey の support 体制促進のため)
- ・ FY06-07 の IODP 航海空白期間に (2007 年 9 月からの 「ちきゅう」 , USSODP の運航まで) , IODP-MI が出資し最低 3 つのワークショップを開催する . 7 つの重要課題

(Paleoceanography , Deep Biosphere, Geohazards, Integrated transect of continent-ocean drilling, subsurface fluid flow, Deep Drilling A Mohole, Observatories) から選ぶ .

< 問題点 >

- ・ bottom up の構造が崩れる . Top down になるのでは ?
- ・ 既存の SAS のグループ (DPGs, PPGs) のタスクと重複するのでは ?

< 基本 >

- ・ SAS 枠組み内でプロポーザル審査がベース . 決して Top down ではない .
- ・ Timeline を明らかにすること .
- ・ Support (ex. Seismic data) 体制を作ること .
- ・ 良いアイデア (プロポーザル) を掘削まで漕ぎ着けられるように手助けする為の物であり , 落ちこぼれ救済ではない .
- ・ アンフェア , インサイダーが起こらないように十分配慮する .

< スケジュール >

NanTro の alternate になりうるプランも含め , 早ければ早いほうが良い .

< その他 >

プロポーザルのアイディアはどこから出るのか ? WS を開いて出していくのか ? Seismic data の予算は ? 既存の SAS 内に DPG, PPG プロポーザル support 組織があるが , それとの関係は ? など , 具体案は全く決まっていない .

既存の組織を改編することも含めて , 今後議論する .

国内体制 (巽氏 , 伊藤久氏) ミッションだけでなく , IODP に関わる国内研究 (旅費も含めすべて) を進めるためのサポートも出来るように考えている (努力している) .

2-2. 次回 SSEP 会議の対応について

荒井 co-chair から , 新メンバー (富士原氏 , 入野氏) へ SSEP の仕事について説明があった .

プロポーザル審査のほか , 3 つの WG に振り分けられる .

- ・ WG1 : SSEP とプロポーネントのコミュニケーションを円滑に . レビュー (国による違い ; 日本人はソフト , 米は直接厳しいコメントなど) , first watchdog の役割などについて , これまでの総括を行い問題点などを洗い出す

- WG2 : Mission Team について
- WG3 : PPGs¹, DPGs²についての議論 (WG2 と密接に関係するであろう), 及び Active proposal (100 くらい)が要求しているプラットフォーム, ツールなどを洗い出す.

次期共同議長候補の推薦について

- 荒井氏と交代する多田氏を推薦する. 推薦を小川氏に依頼し承諾された.
- co-chair 三名とも Environment になるが, 度々議論し, 既にコンセンサスは得られている

次期 SSEP メンバーについて

- ハワイ会議終了後退く三委員 (荒井氏, 海野氏, 小川氏) の後任を, 公募する.
- 分野は, 「微生物」, 「岩石」, 「テクトニクス (or 固結堆積物構造など)
- 事務局から, 委員交代のローテーション・ルールを守るようにという要請があった. しかし, 現状では 2003 年コロラド会議から参加したメンバーが多数である為, ローテーション・ルールを固持するよりも, ローテーションが落ち着くまでは特例とするよう荒井氏から提案された.

¹ PPGs (Program Planning Groups): いくつかの重要なプロジェクトについて (MT に近いもの) 期間が長い.

² DPGs (Detail Program Group): 重要な種があるときに (ex. Hotspot trails など) 実際的にどうするか. 短期間